日本女医会誌
復刊第121号
題字吉岡弥生

巻頭言

会長　山﨑　倫子

あけましておめでとうございます。皆様にはご健勝に新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。新しい年を迎えるごとに、もう一年が経ってしまった、この一年はどんな年だったろうかという反省と、今年はもっと頑張らなければという新たな覚悟で胸が一杯になります。

お蔭様で女医会は順調に予定通りに仕事も進んでおり、念願の会員増強も少しずつではありますが増加の傾向を辿っております。心配されることは、年度末にうっかりした、不本意な会費滞納からごそっと自然退会になってしまう方の多いことです。どうぞそのようなことのないよう、くれぐれもよろしくお願い申し上げます。

年頭に当たって、今年もまた、会員の増強、和と連帯、そして新たに〝見える女医会〟を目標に努力してまいりたいと考えています。

総会挨拶の中でご披露致しましたシンクタンク、人材バンクにつきましては、理事会で十分検討の結果具体的に人材登録をはじめることに決定しました。会員の皆様には、地域において、また全国的レベルで、講義、講演、執筆、指導、カウンセリング、社会活動、その他、さまざまな活動をしておられることと思います。また、方針決定の場である、審議会、委員会などに参画しておられる方々も多いことと存じます。しかし、本部としてはこのような情報をまったく把握していないのです。そこで、この分野でなら、あるいはこのような活動（講演、執筆など）なら登録してもよいとお考えの方、ぜひ進んでご登録いただきたいと思います。またご推薦もいただきたくお願い申し上げます（ただしご本人の承諾のない場合は登録致しません）。

こうした人材リストを生かして、会員同志の交流を深め、また女医会活動も拡げていきたいと思います。さらに、政府をはじめ関連団体などにも女医の登用を計っていきたいと考えます。女医の活躍する分野はたくさんあると思われますので、人材バンクを作ることによって積極的に〝見える女医会〟を目指していきたいと考えています。

最近こういう分野で仕事をしている方、特異な仕事をしている方、コメントや話を伺わせていただける方、撮影をさせていただける方など、とメディア関係から紹介の依頼が数件ございました。このようなせっかくの機会はぜひ有効に利用していきたいと願っています。女性の社会参加が叫ばれている今日、プロフェショナルである私たちの仲間を積極的に送り出せる態勢を準備しておかなければならないと考えます。また、女医と女医会の存在を広く社会に認められるよう努力していきたいと考えている次第です。

さて、この一年をふり返って、六月には埼玉県支部総会に、七月には北海道支部三十周年記念総会にお招きを受け出席して参りました。埼玉支部は皆さん和気あいあいの中で、折々に勉強やお楽しみの会を持たれているご様子、素晴しく思いました。北海道は、もともと北海道女医会として発展してきたもので、今鷹子先生を中心に会員の協力によって北海道ならではの独自の活動を続けてこられております。お招きいただいた機会に、女医会の歴史と素晴しい先駆者、先輩たち、そして今日までの経過と活動、国際女医会との関係など話させて戴きました。日頃お目にかかる機会のなかった四十数名のご出席者と親しくお話しできたことは大きな喜びでした。皆様非常に明るく意欲的にお見受けして心強い限りでした。必ずや会員増強にもお力添えいただけるものと確信しております。いつの日か北海道で日本女医会総会が開かれたらのねがいを托して帰ってまいりました。今後支部のお集まりにお申し出いただければ、日時の許す限り出席させていただきますのでお申し越し下さい。

もくじ

巻頭言……山﨑　倫子（1）
第12回学術講演研修会
第12回学術講演研修会のこと……柴田　洋子（2）
特別講演「創造する心」……本明　寛（3）
支部だより
石川支部だより……横井美佐子（5）
私の大学（東邦大学）……西井　華子（5）
昭和63年度会員学位取得者一覧表……（7）
○日本女医史についてのお願い……久保田くら（3）
○第35回日本女医会定時総会のご案内……（6）
○第4回西太平洋地域国際女医会会議ご案内(1)……（9）
○日本女医会ペンダント発売のお知らせ……（4）
理事会議事録……（8）
常任理事会議事録……（8）
会員動静……（10）
編集後記……（10）

去る十一月二十五日には、早稲田大学教授、日本心理学会会長、本明寛先生を講師にお迎えして学術研修会を開催致しました。〝創造する心〟と題するご講演は、人間本来の生き方を考える上にも示唆することの多い素晴しいお話でした（別項参照）。

女医会本部事業としてかねてから企画中の第一回公開講演会――講師松本文絵、演題〝性と生〟を十月二十二日、大阪府医師会館ホールで開催致しました。大阪支部の先生方には格別のご協力を賜わりました。来場者百余名、初めての講演会を無事好評裡に終えることができたことを喜んでおります。と同時に事業を行なうことの困難さも泌みじみ勉強させられました。松本文絵先生の講演はソフトムードの中で核心をつき、なおあたたかさを感じる素晴しいもので、母親、若い子供たちはもとより、PTA、養護、保健にたずさわる先生方、校医の皆さんにも聞いていただきたいと思いました。年度内にもう一回実施したいと願っております。本部事業費で賄いますのでご希望の支部がありましたらお申し込み下さい。

先頃ある出版社より、保健組合被保険者及びその家族を対象とした〝健康生活の知恵あれこれ〟について小冊子作成の依頼がありました。非常に限られた時間内での執筆と編集で、しかも一般人を対象としたわかり易い文体での解説を書くのには大変苦労を致しました。わずか百頁余のイラストの多い小誌ですが、日本女医会監修で近々発刊の予定でございます。こんな時もご協力いただける人材バンクのリストがあったらと思ったことでした。

次に、現在久保田常任理事を委員長に日本女医史の復刊に取りかかっております。日本女医史は女医神話、医学伝来から江戸時代を経て、明治、大正、昭和に至る女医の歴史を記したもので、福田幹先生を委員長に八名の編纂委員のご苦労によって昭和三十七年に出版されたものです。今回、発刊以降すでに経過した三十年間に亘る記録を整理、編集し、年表として追加し復刊致すことになります。年度内には出版の運びとなるよう努力していただいております。

女医のルーツを知るとともに、私たちの先駆者、先輩たちが女医の地位確立のためにいかに苦難の道を歩み、連帯し活動して来られたか。一九〇〇年、吉岡弥生先生によって東京女医学校が創立され、はじめて女医となる道が開かれたことなど、ぜひ、ぜひ熟読していただきたいものです。

今日、国の内外を問わず政治、経済、社会情勢、いずれもきびしいものがあります。国境を越えた環境問題、人口問題もまたしかりです。わが国における人口の高齢化と在宅医療、医療と福祉、予防と積極的健康作り、救命、救急の高度医療、臓器移植と医の倫理、末期医療とリビングウィル、考えなければならない問題が多々あります。

社団法人女医会としては、皆様のご協力を得て少しでも社会に貢献できるよう歩んでいきたいと願っています。ご指導、ご鞭達の程よろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、皆様のご多幸とご健康を心からお祈り申し上げます。

第12回学術講演研修会

●平成元年11月25日　▼於／京王プラザホテル

第12回学術講演研修会のこと

学術部　柴田　洋子

今回は『創造する心』というテーマで、日本心理学会会長の本明寛先生のご講演が、去る十一月二十五日、京王プラザホテル内にて行なわれた。

本明先生のプロフィールであるが、昭和十六年に早稲田大学文学部心理学科をご卒業になり、約三年間の兵役を経て母校にて研究生活を続けられ、昭和三十年に文学博士の学位を授与された。その後三十年にわたって心理学部門のみならず教育学、法学部門の教育にも関与され、一度ならず早稲田大学文学部長や日本学術会議会員に推挙されて重責をまっとうされ、本年四月から早稲田大学名誉教授となられた方である。先生の奥様登志子様は日本女医会会員であるというえにしもあり、今回のご講演をお願い申し上げた次第である。

当日は参加者九十余名におよび盛況であった。まず山崎会長の挨拶のち、司会者より演者のご紹介を申し上げ講演に入った。演題の「創造する心」という語句のイメージとしては大へんいかめしく感じられたのであるが、本明先生はわかり易い自己体験の比喩を用い、かつユーモラスに論旨を展開されたので、睡魔におそわれるいとまもなく、会場には時おり笑声のさざなみが立っていた。

およそ現代人は早いうちから学歴社会に方向づけられた受身の教育に飼いならされ、長じては情報化社会の渦の中にまき込まれることによって、いつの間にか本来の自分でないような先入観念に支配されてしまう。それによって認知のしかたが画一化されていることさえ気づかない。そこにはまっ白な子供の心のような自由さがない。その自由さ、素手で感じる自己本来の心を取り戻すことがすなわち創造する心なのである。そこにこそ自己実現の個性が投映され、豊かな人生が展開されてゆく。そして本明先生はマスローの言葉を借りて、「人間の健康と創造性のかく得とはイコールである」と述べ、創造性は真の幸福をもたらし、かつ長寿にもつながるという明るい方向づけをもってお話を閉じられた。くわしいことは先生ご自身の抄説によって会員の皆様にお伝えできると思うので、司会者としての愚感はこの辺でとどめさせていただく。

お話しが終わったあとも本明先生ご自身から聴衆の質問を受けて下さるというご提案があり、時間の許す限りフロアとの会話がなされたのち、山崎会長の謝辞をもって会を閉じた。そのあとの懇親会でも先生を囲んでなごやかなお話し合いができたことも幸であった。

特別講演

『創造する心』

早稲田大学名誉教授　本明　寛

講演中の本明 寛先生

個性豊かな人間の多かった明治時代に、ノーベル賞の候補にあがった研究者として、野口英世、北里柴三郎、稲田竜吉、井戸泰博士らの医学的業績を知らない人はいないだろう。西欧社会の偏見で、彼らが受賞しなかったのは悲運であったとしかいいようがないと思う。今日では日本人でノーベル賞を受賞している学者も何人か出ているが、アメリカ百二十一人、イギリス六十二人、ドイツ五十人に対し、日本はわずかに三人（一九〇一～一九七九年）というのも意外である。そこで「独創的研究とは何か」という課題で、優秀な研究者の養成問題が日本の学界でも十年ほど前から特に取り上げられてきた。その一つの提案が「学術月報」編集委員会から「研究と独創性」の論文集となって公刊されている。

私どもの研究室でも、こうした学界の流れの中で「独創性」に焦点を向けて心理学的研究を進めてきた。その成果は久米稔編の「TCT創造性検査解説」となって公刊されている。

こうした流れとは別にマスローらの自己実現を人間性の最高価値とする学者たちの間で、自己実現する人は創造的であるという考え方を主張している。マスローは自己実現をとげつつある人間は健康で、創造的であるという仮説を立証しようと努力した。また、交流分析派の人たちも、〝人間は思索的で、よく気がつき、創造的・生産的な人間、すなわち勝者たりうる権利をもっている。〟と、創造性を人間のよりよく生きる原理として取り上げている。このような人間主義派の学者たちの主張が創造性には天才的創造と自己実現の創造のあることを警鐘する結果となった。アドラーの「創造的自己」の実現もこの自己実現概念とほぼ同一の意味をもっている。マスローの自己実現人は健康人の意味だという提案は、われわれが、新しく自らの生きる意味を考える時に重要な手がかりとなることはいうまでもない。創造的に生きることが、自己の価値を高めることであるなら、またそれが健康で、生命力を強化することであるなら、われわれもまたこの生き方に関心をもたざるを得ないと思うのである。

創造とは新しい価値あるもの、またはアイディアをつくり出すことである。そうした能力をもっている人を創造力のある人と呼んでいる。新しいといっても、社会的に価値あるもので、人を殺したり、惑わすようなものではないということはいうまでもない。創造する心とはそうした新しいものをつくり出す源となるアイディア、およびそれを実現しようとする努力心をここでは指している。個人の人生という視点からみれば、新しい生き方をもつことといってもよい。心理学では本来創造性という概念を思考・感情・感覚等の概念と同じく、人間性を記述するための概念として用いてきた。独創（originality）は創造（creatioity）の一因子とされている。また、創造性は（創造＋適応）活動という社会的意義も加わったものとみるのが常識であろう。この意味で自己実現の課程という見方が成立するものとみたい。人間が人間らしく生きるためには、新しい考え方をもち、新しいものを生み出さざるを得ない。人間が進歩し、発展するために解決しなければならない諸問題を創造的に解決するという意味にも考えられよう。

創造性の研究分野をみると、創造的思考、創造的技能、創造的態度、（パーソナリティ）等が中核となっている。また、ギルフォードの緻密な因子分析的研究により、知能因子と別に創造因子のあることを指摘して、知能が高く創造性の低い群と創造性が高く知能の低い群のあることを立証している。考える能力は必ずしも頭の良さと相関しないことがわかっている。これに対して反対論もないわけではないが、私どもは自己実現の創造という立場からギルフォード説を支持したい。恩田彰教授はこれらの多様な意味をまとめて〝ある目的達成または新しい場面の問題解決に適したアイディアを生み出し、あるいは社会的、文化的（または個人的）に新しい価値あるものを創り

日本女医史についてお願い

久保田くら

先人福田幹先生編集の日本女医史の再版に際し、年表に近年を追補することになりました。

つきまして、ぜひ会員各位のご協力をお願いいたします。

会員はもちろん、ご存じの女医さんの中に、受賞（叙勲並びに各種の受賞）の方々、各界において社会的に活躍される方々がおられることと存じます。ご多忙中恐縮ながら本部まで直ちにお報せ下さい。掲載は委員会の議を経て決定いたすことをあらかじめご了承下さい。

（日本女医史編集委員長）

出す能力、及びそれを基礎づける人格特性〟と定義している。

人生とは問題場面に直面した歴史である。お互いに、そうした問題場面（ストレス）の解決法がマンネリ化していないだろうか？　泣く子には叱り、平和な状況からは逃げ出し、気に入られるために贈物をする……等手口が固定していないか。ストレス対処の方法には私どもは少なくとも十種の解決法があるとみている。よりよく生きるための創造活動に次の方法がある。

一、対象・状況を細かく、広く観察する。

二、解決・対処のための方法（アイディア）を考える。

三、その方法（アイディア）の評価をする。

四、その方法（アイディア）を実行する。

広中平祐教授の〟IQ的な頭の良さでは抜群といえる人なのに、結局は優れた創造性を発揮し得なかった研究者は多い。単に運が良い悪いの問題ではなく、主な原因は本人自身に内在する〟と述べている。そして〟おびただしい量の情報のデータの中から意味深いものを選び出す選択能力とか、持続する集中力とか、長期間ゆっくりと思考成果を積み重ねていく根気とか、研究課題の将来性を続み取る直観力などが必要となってくる〟と付け加えている。広中氏は主として研究者について述べているのだが、私のいう自己実現の創造性においても同じことがいえると思うのである。そこで創造的人間の特性について五つ程重要な点を挙げておこう。

一、知識欲が強い

知識を追求する欲望だが今日の情報氾濫の社会では、知ることとともに、選ぶ力をもたざるを得ない。特殊的好奇心などといわれる、疑問、予盾、当惑する事柄に役立つ情報を集めるといったお遊びも結構である。

二、困難への挑戦

ストレス時代だといわれる今日、圧力に敗けないでチャレンジする意欲をもちたい。フロイトは上顎ガンの手術を三十三回も受けたが、その間にも重要な研究を発表している。ただ困難に直面した時にもリラックスした気分がもてるような自己訓練を平生からしておくことである。

三、自分の好みを大切にする

自分が特に関心・興味を持っている活動、対象をもつことである。趣味は金にならないというが、逆に人間性を豊かにし、精神的貯蓄をふやすことになる。心の豊かさこそ、創造の源泉になることを忘れないことだ。他人の好みに関心を持つことは人間関係を強くすることにもなる。

四、新しい方法を発見すること

一つの方法で、ある問題に成功すると、それがマンネリ化する。マンネリ化は人間の心の成長を妨害し、老化させる。今日問題になっているタイプAの人のライフスタイルこそ、ストレス対処のマンネリ化からきている。国際的に日本のやり手管理者がその例にあげられてきているが、彼らのやる気十分、競争心、短気、気ぜわしさ、敵意などの行動傾向は、経営上の困難対処の方法として学習したものである。これが冠状動脈の疾患につながっているといわれている。彼らは信念などと自己の行動傾向を述べるが、頭の柔軟性に欠けているに過ぎない。

五、自覚すること

自覚とは自分を知ること、自分の姿をよくみることである。自分を知ることを通じて独自性が生まれ、自立にも結びつくものである。自分というものを自覚する（気づく）ことによって初めて独自のものの考え方、自立的にやっていこうという気持ちが出る。創造という言葉を割合に分かりやすく述べたのがベルグソンだが、彼は生命という言葉を使って、われわれに創造の重要さを教えた。創造の根本は自分がよりよく生きるという動機をもつことにあるといえるだろう。自己実現の創造の意味もそこにあると思うのである。エリクソンのアイデンティティ（identity）の考え方もこの自覚に通じるものがある。

医療に従事しておられる先生方が患者に創造的に生きることを教え、勇気づけられることがあれば、マルティン・ブーバーのいう〟散漫で弱弱しい患者の心に、集中力と秩序づけを与える〟ことができると思う。

日本女医会ペンダント　発売のお知らせ

かねて会員の皆様から御要望のございました日本女医会ペンダントが出来ました。

国際女医会議・日本女医会本部・支部の会合にはもちろんですが、日常にも素晴しいアクセサリーとしてお使いいただける品でございます。

ぜひ全会員の皆様にご愛用いただきたく存じます。

- 18金製の無垢
- 直径二〇㎜　厚さ一・二㎜　重量八g
- 価格　二九、八七〇円
  （製作個数により多少の価格変動があります）
- お申し込みは　社団法人日本女医会宛
  電話（〇三―四九八―〇五七一）または葉書でお願いいたします。
- 第一回の申し込み〆切を二月末日までとします。

（表）

（裏）

支部だより

石川支部だより

石川支部長　横井美佐子

皆様にはおすこやかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

石川県は天災が少ないとはいうものの積雪地帯のため十一月初旬には早くも兼六園の雪吊りが始まり、各家庭もそれに習って冬支度を整えますが今年は予想外の暖かい師走入り、「大雪予報」を忘れるような毎日です。

当地には、金沢大学、金沢医科大学があり、毎年卒業の女医さんも多いのですがなかなか女医会への加入が少なく、初代の故荒井梅子先生に続いて早稲田かめの先生、米林梅子先生と輝かしい歴代支部長の後を継いだ者としては誠に不甲斐ないことと自責の念に堪えません。最近は、医師の生涯教育を目的として学術講演会や研修会が頻回に行なわれるので、私ども年一回の支部総会の他はこうした勉強会で顔を合わせる機会が多いため、そのつど「ミニ女医会」と称して相互の意志疎通を図り、親交を深めております。平均寿命の延長、出生率の低下、核家族化の進行、教育水準の向上等は先進国並みとはいえ、来たるべき高齢化社会に備えてのわが国の現状は必ずしも万全の施策が講ぜられているとは思えません。わが石川県のみをみても、老人病院、中間施設は常に満杯。入院には長い順番を待たねばならず、必然的に在宅看護が必要となってきます。寝たきり老人やぼけ老人を抱える家族の重荷は大変なもので、医師側としても、双方の健康管理や精神的支え、看護補助の任務が生じてきます。副支部長山本喜代子先生は保健所長の立場で正面からこの問題と取り組み、保健、医療、福祉の接点としての役割を、保健婦の訪問指導に同行したり、老人介護の寸劇を作って婦人会の人たちに見せたり、テレビ出演等、幅広い活動をしておられます。不肖私も診療の傍ら、民生委員として地域福祉のお手伝いをしています。が力及ばぬことばかりでございます。三年前、北欧諸国を廻る機会を得てコペンハーゲンの老人施設その他を見学して、高福祉、高負担の実情に触れ、その一長一短を痛感してまいりました。

老人福祉目的との消費税問題で大揺れの日本はどんな平成二年となるのでしょうか。多難な医療情勢に立ち向かって、日本女医会のますますのご発展と諸先生のご健康・ご活躍を祈り上げます。最後に石川県のシンボルをご紹介します。

県　旗

県木（アテ）

県鳥（イヌワシ）

郷土の花（クロユリ）

私の大学

東邦大学　西井　華子

その昔、多摩川を渡ると東邦大学病院の向かいにあった「鬼足袋」という足袋工場のネオンが、東海道本線の車窓から見ることができたという。現在、東邦医大通りといわれるバス路線が、通称鬼足袋通りとして名残りを留めている。東邦大学は、医、薬、理学部の理系総合大学で、他に付属大森病院、付属大橋病院、医療短期大学が含まれ、また、付属の中学・高等学校を世田谷区駒場と、千葉県習志野市にそれぞれ有し基礎教育に、人間形成に力を注いでいる。

東邦大学は大正十四年四月、額田晉、額田豊の兄弟により、帝国女子医学専門学校として創設された。その翌年には「医学、薬学は車の両輪の様な関係である」との理念に基づき薬学科が併設された。さらに、昭和十六年三月に理学科が設置されて、本邦の私学理系専門学校の草分けとなった。第二次世界大戦で、大森キャンパスは罹災したが、昭和二十年十月には旧軍隊跡の習志野（千葉県）に施設を確保し、占領下での医学教育をいち早く推進している。戦後の混乱期には幾多の難関にぶつかりながらも、医学教育のための気迫と努力で困難を切り抜け、昭和二十四年十一月女子のみの学園から、男子に対しても門戸を開くことが必要となり、男女共学制を採ることになった。昭和二十五年、学校法人東邦大学と改称され新しい門出を迎えた。

医学部付属大森病院（大田区）は大正十四年十二月に開院された。木造ではあるが大森地区の広大な敷地に贅沢に散在し、地域に密着した医療を行なっていた。昭和三十八年を皮切りに一号館、二号館と次々とビル建設に着手、医療技術の加速度的進歩に伴って変貌を遂げた。現在付属大橋病院（目黒区）の隆盛とともに千葉県の佐倉市にも付属病院を新たに建設予定である。

すべての方面でコンピューター化されつつある今日、東邦大学では「自然、生命、人間」を建学の精神に、医、薬、理、看護部が一貫となり「かけがえのない自然と人間を守る」二十一世紀に向けての人材養成に努め邁進中である。

第35回日本女医会定時総会のご案内

新しい年を迎え、諸先生方にはお変わりもなく、ご活躍のこととお慶び申し上げます。先にご案内申し上げました、第三十五回日本女医会定時総会を仙台市において左記の日程のように開催致します。なにとぞ、皆様お誘い合わせの上、奮ってご参加下さいますよう、宮城県女医会会員一同、心よりお待ち致しております。

一、期　日　平成2年5月26日(土)～27日(日)

一、会　場　仙台国際ホテル
〒980 仙台市青葉区中央三丁目四―十七
電話　〇二二（二六八）一一一一

一、会　議

▽5月26日（土）

評議員会　午前10時30分～12時

総　会　午後1時～3時30分

講演会　午後4時～5時

演題　「これからのエネルギー」

講師　西沢潤一先生
東北大学工学部教授（分子電子工学研究部門）半導体研究の世界的権威、平成元年度文化勲章受章。

懇親会　午後5時30分～7時30分
アトラクション　宮城県女医会コーラス部

評議員懇親会　午後8時より

一、観　光

☆Aコース（日帰りコース・バスと船）

5月27日（日）
仙台国際ホテル8時30分発――多賀城――奥のほそみち探訪――東北歴史資料館――松島の景観を眺めながら昼食――松島瑞巌寺――奥松島嵯峨渓（遊覧船にて周遊）――仙台駅17時解散
定員80名　費用一五、〇〇〇円

☆Bコース（一泊コース・全行程大型バス）

5月27日（日）
仙台国際ホテル8時30分発――盛岡手作り村――つなぎ温泉（昼食）――角館武家屋敷――田沢湖――田沢湖高原温泉（駒ヶ岳観光ホテル泊）

5月28日（月）
駒ヶ岳観光ホテル発――玉川温泉（温泉地獄見物）――後生掛温泉（昼食）八幡平アスピーテライン展望台――盛岡駅16時解散（希望者はそのままバスにて仙台駅19時着）
定員40名　費用四五、〇〇〇円

★なお、両コースとも先着順にて申し込みを受け付け、定員になり次第締め切らせていただきます。ただし、両コースとも申し込みが30名に達しない場合は中止いたします。

一、宿　泊

5月25日（金）・5月26日（土）
仙台国際ホテルにシングル一六〇室、デラックスツイン二〇室を確保いたしました。満員になりましたら他のホテルをお世話いたします。なるべくお早目にお申し込み下さい。

一、会場への交通
JR仙台駅より徒歩七分。タクシーで三分。

一、申し込み
申し込みは本誌同封の葉書にて**2月末日必着**にてお願い致します。

平成二年一月

第35回日本女医会定時総会
宮城県準備委員会
代表　長池　博子

昭和63年度
日本女医会会員学位取得者一覧表（学術部）平成元年11月25日

全国医科大学78校に調査依頼し56校より回答あり、結果222名の学位取得者中8名の既会員がおり、会員外で住所判明の214名に入会のお誘いをし、11名の入会あり。

（敬称略）

支部	氏名	出身校	卒年	論文名
埼玉	※宇野　美幸	帝京大医	S57	出生体重とこれに影響を及ぼす母体因子，社会的因子，季節的因子についての統計的検討
〃	高橋　晴美	埼玉医大	S58	多発脳梗塞性痴呆の病態――単純反応時間を中心とした検討――
〃	吉田　泰子	東女医大	S53	糖代謝における年齢的な反応性の変化――グルカゴン負荷試験について――
〃	※渡邊　理恵	帝京大医	S57	verapamil　のラット心機能に及ぼす影響の性差および年齢差
栃木	原　美佳子	独協医大	S58	水浸拘束ストレスラットによる急性胃病変の検討
千葉	岩川真由美	千葉大医	S53	術中照射に於ける脊椎放射線障害の基礎的・臨床的検討
東女医学内	兼松　幸子	東女医大	S55	インスリン依存型小児糖尿病の長期追跡調査
〃	中村　明實	〃	S43	老年期から観察した内因性躁うつ病の経過形態
〃	※水口　美知	〃	S54	皮膚限局性アミロイド症におけるアミロイドの起源に関する形態学的，免疫組織学的研究
神奈川	田原　佳子	〃	S51	身長の標準化成長速度曲線とその臨床応用について 第一編　現在の日本人の身長の標準化成長速度曲線の作成 第二編　標準化成長速度曲線の臨床応用
静岡	嵯峨こづえ	浜松医大	S58	ビタミンKの母乳への移行に関する研究
愛知	岩塚　和子	三重大医	S56	頭蓋頸椎移行部奇形の神経耳科学的研究
〃	小川　麻子	愛知医大	S56	卵巣癌における血中腫瘍マーカーの複合的測定値を用いた判別関数式の評価
〃	藪下えり子	〃	S54	中高年労働者における中距離等視力域とその視機能矯正に関する研究
新潟	佐藤敬以子	秋田大医	S58	免疫遺伝学的解析 小児腎疾患における溶連菌成分に対する免疫応答性の免疫遺伝学的解析――第1報―― 小児腎疾患における溶連菌成分に対する免疫応答性の免疫遺伝学的解析――第2報―― 小児各種腎疾患における溶連菌成分に対する免疫応答性の免疫遺伝学的解析――第3報――
三重	富田まり子	東女医大	S57	Measurements of Oxygen Pressure in the Vocal Fold during Laryngeal Nerve Stimulation
大阪10	池岡　直子	兵庫医大	S57	$^{99m}TcO_4^-$経直腸門脈シンチグラフィを用いた肝硬変の食道静脈瘤形成への進展と長期予後に関する研究
京都	加藤　裕子	近畿大医	S57	血清ビリルビン分画の臨床的意義
〃	中村　久美	京都大医	S49	The site of action of trimetaphan-induced neuromuscular blockade in isolated rat and frog muscle （ラットおよびカエル摘出筋標本におけるトリメタファンによる神経筋遮断の作用部位）
広島	※小武家暁子	広島大医	S54	各種甲状腺疾患患者における細胞性免疫能の研究
高知	※貞包　典子	帝京大医	S52	起立性低血圧の自律神経機能
福岡	田中　真紀	久留米大医	S55	乳癌における尿中 Polyamine 測定の臨床的意義
熊本	大野　美保	〃	S58	Effects of Synthetic α-Human Atrial Natriuretic Polypeptide(α-hANP) on Hemodynamics, Renal Function and cyclic GMP in Patients with Essential Hypertension　（α-hANP 投与による本態性高血圧症患者の血行動態，腎機能および cGMP の反応について）

※……昭和62年度取得者

理事会議事録

日時　平成元年9月30日
場所　日本女医会会議室
出席者（敬称略）
山崎、大原、小俣、佐藤、久保田、佐野、白橋、二村、野沢、野本、藤井、丸山、三好、青井、明石、荒木、石川、石津、稲生、尾中、小出、白浜、関口、中濱、南雲、野呂、平瀬、福永、森田、添田、西山、山口
欠席者（敬称略）
石原、橋川、橋本、小暮、柴田、八木

庶務報告　南雲理事
7月21日　・国連NGO国内委員会に佐野常任理事出席
7月22日　・常任理事会開催
7月28日　・日本女医会誌一一九号、ルーペンダンパンフレット、会費請求書発送
7月29日　・日本女医会北海道支部総会（札幌）に山崎会長出席
8月2日　・医師国家試験合格者および学位取得者へ当会入会のお誘い状発送（国家試験合格者一、〇五六名、学位取得者二一四名）
8月31日　・支部助成金発送（三九支部）
9月3日～8日　・国際女医会第二一回国際会議ソウルにて開催（六二名出席）
9月16日　・Dr.タッドベリー（アメリカ）来日のため有志にて歓迎会を行なう
9月22日　・第四四回国連総会政府代表代理野瀬久美子氏歓送会に佐野常任理事出席
9月28日　・国際婦人年連絡会主催女性国会議員と婦人問題についての懇談会に佐野常任理事出席
その他
(1)戸井田三郎氏より厚生大臣就任の挨拶状あり
(2)東京女子医科大学無医地区研究会より「第二三回活動報告書」と「今後の展望」について提出あり
(3)厚生統計協会発行「国民衛生の動向」を購入（一、七〇〇円）
(4)故滝沢テル先生ご遺族より供養の品あり

連絡事項
一、東京都生活文化局婦人青少年部より婦人問題推進地域会議の開催について
テーマ　あらゆる分野での男女共同参加を着実に進めよう
日時　平成元年11月17日(金)
場所　福島県・ホテル聚楽
二、労働省婦人局より育児休業制度普及促進方協力依頼について実施要綱あり　承認

会計報告　石川理事
7月・8月分別紙どおり報告。　承認

各部報告
〈渉外部〉　野沢常任理事
・Dr.タッドベリー歓迎会に八名出席。　佐野常任理事
・第四四回国連総会政府代表代理瀬久美子氏歓送会出席。
・国際婦人年連絡会主催女性国会議員と婦人問題についての懇談会出席。
〈広報部〉　明石理事
・日本女医会誌一二〇号の企画および編集のため8月28日および9月21日広報部会開催。
〈事業部〉　白浜理事
・女医の診察室から「健康生活の知恵袋」発行。10月中旬の予定。　大原副会長
・公開講演会開催について
日時　平成元年10月21日（土）午後三時
場所　大阪府医師会館
演題　考えてほしい「性と生」
演者　松本文絵（京都支部）花王生活科学研究所名で一、〇〇〇名の方に公開講演会の案内発送。
〈学術部〉　藤井常任理事
・第一二回学術講演研修会について
日時　平成元年11月25日（土）午後三時三〇分
場所　京王プラザホテル　南館三階　グレースルーム
演者　本明　寛先生
演題　創造する心
（今回、吉岡弥生賞受賞者業績発表は行なわないため当初の予定より三〇分遅く開催）
〈国際女医会〉　藤井国際連絡書記
・第二一回国際女医会議について
9月3日～8日ソウルで開催。詳細は10月発行の日本女医会誌に掲載。
・第4回西太平洋地域会議開催について
日時　一九九〇年8月29日～31日
場所　オーストラリア・ブリスベーン

議事
一、人材バンク（シンクタンク）について
当会に対し講演依頼のあった場合にすぐ対応できる演者を登録する。
庶務部担当。
二、役員選挙方法について
・前回に引き続き検討。在宅投票を採用する場合は、定款改正も考える必要がある。継続審議。
・会誌に役員選挙方法について会員よりの意見や要望を寄せていただくよう依頼の記事を掲載する。
三、その他
(1)国際女医会西太平洋地域分割案について
以前から問題であった西太平洋地域の日本、台湾、韓国、フィリピン、オーストラリア、ニュージランドを二つの地区に分割する案については、不明瞭な点があり国際女医会本部に再確認する。
(2)10月28日常任理事会について
常任理事会は、定例日の10月28日行なう。
(3)新卒入会者への記念品について
日本女医会のネームと国際女医会マーク入り大判ハンカチーフを発注。
(4)理事会および役員新年会について
日時　平成2年1月27日（土）
場所　京王プラザホテル
副会長（庶務担当）佐藤
庶務部　白橋、三好、荒木、南雲、福永

常任理事会議事録

日時　平成元年10月28日
場所　日本女医会会議室
出席者（敬称略）
山崎、大原、小俣、佐藤、石原、佐野、白橋、二村、野沢、野本、橋川、橋本、丸山、三好
欠席者（敬称略）
久保田、藤井

庶務報告　三好常任理事
9月30日　・理事会開催

10月16日　・国際婦人年連絡会に佐野常任理事出席
10月21日　・公開講演会を大阪府医師会館にて開催

連絡事項
一、東京都生活文化局婦人青少年部より平成元年度地域女性団体指導者研修会の実施について
テーマ　女性と人権
日時　平成元年11月28日（火）～29日（水）
場所　第一日目・東京都迎賓館四階大会議室
第二日目・東京都消費者センター多摩西支所
二、東京婦人少年室より第五回パートタイム労働旬間の実施について
目標　パートタイム労働指針の周知、徹底を図る
期間　平成元年11月1日～10日
三、労働省婦人局より第五回男女雇用機会均等月間のための体験記募集について
内容　男女雇用機会均等法の趣旨に沿った雇用管理改善例や体験に基づくもの
締切　平成元年11月30日（木）
応募方法　四〇〇字づめ原稿用紙五枚以内　二村常任理事

会計報告
9月分別紙どおり報告　石原常任理事

各部報告
〈事業部〉
・公開講演会を平成元年10月21日大阪府医師会館において開催。
・日本女医会監修「女医の診察室から」の発行は、やや遅れる。　橋本常任理事
〈学術部〉
・現在、第一二回学術講演研修会出席予定者八一名、懇親会五四名。
プロジェクターは、ホテルへ依頼。

議事
一、平成4年総会開催地について
北海道支部より総会開催を受諾してもよいとの連絡あり、平成4年開催を北海道支部に依頼することを決定。
二、その他
(1)日本WHO協会への入会について
現時点では入会しない。
(2)記念品販売について
新卒加入者および一般加入者へ入会に際し贈呈する。
会員には、一枚五〇〇円で販売する。
(3)日本女医会ペンダントの作製発売について
エディーコーポレーションに依頼したペンダントの見本が出来た。見本通り作製することを承認。
作品は金製のため価格が製作個数により変動するため次号会誌に案内し会員から予約を取る。
(4)役員選挙方法について
引き続き検討。
(5)シンクタンクについて（人材バンク）
当会に対し講演依頼のあった際、迅速に対応できるよう演者（会員）を登録する。次号会誌に登録依頼の案内を掲載。
(6)役員出張旅費について
部の責任として出張の場合は、従来どおり二名まで支給する。　以上
副会長（庶務担当）佐藤
庶務部　白橋、三好

理事会議事録

日時　平成元年11月25日
場所　京王プラザホテル　42階　御岳
出席者（敬称略）
山崎、大原、小俣、佐藤、久保田、佐野、二村、野沢、野本、橋川、橋本、丸山、三好、青井、明石、荒木、石川、稲生、尾中、小出、小暮、柴田、白浜、関口、中濱、南雲、野呂、福永、森田、添田、西山、山口
欠席者（敬称略）
石原、白橋、藤井、石津、平瀬、八木

庶務報告　荒木理事
10月27日　・厚生省へ平成元年度公益法人概況調査票および台帳提出
10月28日　・常任理事会開催
11月2日　・日本女医会誌一二〇号、年金パンフレット、ルーペンダンパンフレット、会費請求書発送
11月10日　・国際婦人年連絡会国連婦人開発基金委員会に佐野常任理事出席
11月14日　・宮城支部総会へ石原常任理事、年金加入者促進のため出席
11月22日　・日本女医史編集委員会開催　承認

会計報告　青井理事
10月分別紙どおり報告。　承認

各部報告
〈広報部〉　稲生理事
・日本女医会誌一二一号の企画および編集のため、本日広報部会開催。
〈事業部〉　橋川常任理事
・11月14日宮城支部日本女医会総会準備役員会へ年金加入促進のため石原常任理事出席。

第4回西太平洋地域国際女医会会議ご案内(1)

会期：1990年8月29～31日
開催地：ブリスベン（オーストラリア・クウィーンズランド）
タイトル：21世紀へ向けての女性の健康に関する論点
以下のトピックスを含む
・女性に対するAIDSの危険性
・姑息的療法、倫理、介護者
・高齢化する人口――高齢化する女性
・医学にたずさわる女性の役割と到達点
・危機に立つ家族――苦しむのは誰？
＊演題発表希望者は二月二十日までにタイトルと二〇〇語位の抄録を藤井までお送り下さい。
旅行のご案内は四月の会誌に掲載する予定です。

国際連絡書記　藤井倚子
〒173 東京都板橋区加賀2－11－1
TEL03（964）1211内線（2245）
帝京大学医学部薬理学教室

〈学術部〉　橋本常任理事
・第一二回学術講演研修会を本日開催。
・学術研究助成申込者を受付中。
・昭和63年度学位取得者一覧表。
（別紙）
〈渉外部〉　佐野常任理事
・国際婦人年連絡会議において国連婦人開発基金（UNIFEM）への寄付を協力依頼された。
〈庶務部〉
・現在までの在宅投票についての意見をまとめて掲示。

議事

一、役員選挙方法について
全役員より12月5日までに記名の上役員選挙方法についての意見を提出する。
二、人材バンク（シンクタンク）について
当会に対し講演依頼のあった際、迅速に対応できるよう演者（会員）を登録する。次号会誌に登録依頼の記事を掲載。
三、平成4年総会開催地について
北海道支部より総会開催を受諾してもよいとの連絡あり、平成4年開催を北海道支部に依頼することを決定、支部にその旨連絡。
四、日本女医会ペンダントの作製発売について
エディーコーポレーションに依頼したペンダントの見本が出来た。次号会誌にて案内する。
五、その他
(1)記念品販売について
新しく製作した日本女医会ハンカチを新卒加入者および一般加入者へ入会に際し贈呈する。会員には、一枚五〇〇円で販売する。
(2)日本女医会監修「女医の診察室から」出版について
製本が完了した。出版社より原稿料について連絡があった。
(3)国際女医会第四回西太平洋地域会議開催について
日時　一九九〇年8月29日～31日
場所　オーストラリア・ブリスベーン
次号会誌に参加案内を掲載。
(4)職員ボーナスについて
二・七カ月分支給。
以上
副会長（庶務担当）佐藤
庶務部　三好、荒木、南雲、福永

会員動静

入会会員（敬称略）
北海道支部　浜田啓子　中根敏得
埼玉支部　青木三重子　越川法子
高橋晴美　鈴木恒子
栃木支部　原　美佐子
千葉支部　岩川真由美
江東支部　松峯寿美
品川支部　鎮西美栄子
新宿支部　深田典子
杉並支部　横山和子
文京支部　名知仁子　田宮菜奈子
神奈川支部　栄枝三佐子
圓地真知子
静岡支部　嵯峨こずえ
愛知支部　大橋和紀子　中村和代
岩塚和子　渡辺さゆり
小川麻子　山本紘子
新潟支部　佐藤敬以子
富山支部　藤川真理子
大阪10支部　吉田麻美
京都支部　中村久美　加藤裕子
国吉葉子
兵庫支部　大野周子
高知支部　北川伸子
福岡支部　田中真紀
熊本支部　大野美保

新卒入会会員（敬称略）
北海道支部　西原崇子
宮城支部　野村美樹子
群馬支部　小林千恵
埼玉支部　増田千鶴子
栃木支部　斉藤幸恵　赤岡史子
千葉支部　高橋知子
新宿支部　出海陽子
杉並支部　岸　美佐
世田谷支部　住吉周子
中野支部　新井真理
練馬支部　鈴木牧子　関野　規
港支部　林　康子
東女医大学内支部　島　穂高
川上貴美　中本智恵美
森田祐子　田村幸恵
永富絵美　松尾明美
神奈川支部　山田不二子
愛知支部　鈴木千尋　沢入美穂
池田純子
大阪2支部　杉本佳英子
大阪6支部　河原澄枝
大阪10支部　藤林里佳子
岩佐知子
石川支部　濱中まさみ
兵庫支部　前田佐智子
岐阜支部　山岸亜紀
広島支部　蔵本美智子
山口支部　藤本美子
香川支部　和田理恵
福岡支部　水間日香里
長崎支部　森山和佳

物故者（敬称略）
栃木支部　橋本静江　滝沢テル
都下東支部　小石登志
神奈川支部　沖　文恵
山梨支部　加藤静子
大阪6支部　一井幸子

編集後記

謹賀新年
会員の皆さまには、平成二年の新春をいかがおすごしでしょうか。
昨年は内外共にあわただしい、次次と悲喜こもごものニュースに追われた一年でした。その中でも、年末の父子生体肝移植の成功と、凍結受精卵ベビー誕生の二つは、われわれ人類に大きな課題を投げかけました。
さて本日会誌百二十一号をお届け致します。会長の意欲あふれる巻頭言にもありますように、今年も北から南へと支部会員のコミュニケーションが生まれることと思いますし、本部と支部との交流が非常に大切なことであると思います。日本女医会の脱皮も会員皆さまの意欲で達成されましょう。その意味で執行部各部もガッチリとチームワークを組んでいろいろと意欲的に活動致しております。
わが広報部におきましても、会員の声の広場であり、また本部活動の状況をお伝えする唯一の媒体がこの会報であると心得え、発刊のたびごとにソツのなきようにと気を配っております。今は印刷物が多くて、お手許はさぞかしと思いますが、日本女医会誌に関しましては、どうぞお目とおし下さいますよう、切にお願いいたします。きっと何か得るものがあると思います。
それでは、今年もよき会誌が発刊できることを念じつつ、会員皆さまのご健康とご隆盛を心から祈願致しております。
文責・丸山芙実

平成2年1月20日　印刷
平成2年1月25日　発行
編集人　久保田くら
発行人　日本女医会
発行所　東京都渋谷区渋谷2－8－7　青山宮野ビル
社団法人　日本女医会
TEL（498）〇五七一
制作　東京都文京区水道1－5－16（815）六六六一
株式会社　金剛出版